

会費納入についてのお願い

既に、郵便振替口座の名義の変更をしました。追って、会費の請求をします。しばらくお待ちください。

2016年度 年間行事・予定

■行事回数 ①年次大会・例会2回(可能ならば4回) ②見学会・巡検2回 ③映像の会3回 ④海外文献の会10回

■刊行回数 ①「鉱山研究」1回 ②「ニューズレター」4回

2016年

4月16日(土) 年次大会・総会 渋谷区立勤労福祉会館

5月20日(金) 海外文献の会 川崎市産業振興会館

6月25日(土) 第44回 映像の会 渋谷区立勤労福祉会館

「マーガレット・サッチャー 鉄の女の素顔」イギリス, 2011年

映画「パレードへようこそ(原題 Pride)」イギリス, 2014年

7月7日(木) NL103 発行 (大会報告、映像の会・例会案内、2015年度仮会計会報告、名簿ほか)

7月28日(木) 海外文献の会 川崎市産業振興会館

30日(土) 例会 渋谷区立勤労福祉会館

村田 淳「アメリカ、コロラド州、テルライド鉱山」

8月19日(木) 海外文献の会 川崎市産業振興会館

9月1日(木) 海外文献の会 川崎市産業振興会館

17日(土) 第45回 映像の会 渋谷区立勤労福祉会館

「水俣病の60年～終わらない 戦後最大の公害病～」NHK, 2016年「写真の中の水俣～胎児性患者・6000枚の軌跡」NHK, 1991年12月 ETV特集「水俣病 魂

の声を聞く～公式確認から60年～」NHK, 2016年5月「生きる伝える“水俣の子”の60年」熊本県民テレビ, 2016年5月
10月6日(木) 海外文献の会 川崎市産業振興会館
10月15日(土) NL104 発行
会費請求
10月下旬～12月上旬 伊豆巡検下見
11月10日(木) 海外文献の会 川崎市産業振興会館
19日(土)～20日(日) 鉱山見学会 長登銅山・宇部炭礦
12月中(土) 第46回映像の会(事前にNL臨時号発行)
末日 会報原稿締切 (『鉱山研究』93月号3月末発行の予定)

2017年

1月中旬(木) 海外文献の会 川崎市産業振興会館
28日(土) 例会(報告者募集)(会場交渉中)
島西 智輝「石炭生産技術の導入・革新と海外移転」
長谷川 雅康「イタリア・エルバ島の鉄山跡及び関連施設を巡って」
2月中旬 海外文献の会 川崎市産業振興会館
下旬 NL105 発行
3月上旬(土、日) 予定 伊豆巡検(松崎町、南伊豆町付近)
中旬 海外文献の会 川崎市産業振興会館
3月末 会報『鉱山研究』93号発行
4月中旬(土) 年次大会・総会 (会場未定)

『鉱山研究』原稿募集

『鉱山研究』に掲載する原稿を募集します。

内容は鉱山に関係するものであれば、分野を問いません。

メールで完成原稿(著者校正無し)を村田にお送りください。完成原稿でない場合は村田に連絡をください。その場合、原則として入力料金がかかることがあります。

なお採否は、編集担当が審査させていただきます。

■締切: 12月末日、『鉱山研究』93号は2017年3月末に発行の予定です。

■問い合わせ・送り先: 村田 淳 〒221-0011 横浜市神奈川区神之木台41-22

Phone ・ Fax : 045-401-5259 メール : sunao-murata@y8.dion.ne.jp

長登銅山と宇部炭礦（山口県）見学の参加者募集

昨年は実施できませんでしたが、今回は、日本で最初の銅山との説がある長登銅山と日本で最初に開館された石炭記念館を見学します。

宇部炭田は、筑豊、常磐、北海道と並ぶ日本の4大炭田の一つで、一番早く採炭のやめてしまいました。宇部市海岸から海の沖合にあり、海底部分で落盤や海水が流入する死亡事故が数回あった。

江戸時代は製塩用に採掘、19世紀後半になってから山口藩による本格的な採掘がおこなわれた。明治維新後は、民間に渡り管理・採掘された。東見初炭礦、沖ノ山炭礦、長生炭礦によって開発・採掘された。太平洋戦争後は宇部興産の一躍を担い、やがて一帯は化学コンビナートに発展した。宇部炭は、褐炭や亜炭で品位が高くなく、ほかの炭田に比べて1967（昭和41）年に閉山した。

長登銅山は、7世紀末から8世紀初めにスカルン鉱床から銅などの鉱物の採掘を始め、奈良の大仏の銅を供給したといわれている。奈良時代から平安時代にかけて長門の国直営で銅、鉛を産出したが、12世紀に休止、14世紀に再会したが。技術的な支障があつて再び休止した。明治時代から昭和にかけて再稼働し日本の独自の吹床製錬法を採用していた。1960（昭和35）年に閉山した。

奈良時代から始まる銅山の貴重な遺構が多数残されている。2003年国の史跡に指定された。

なお、参加者が少ない場合は中止します。ふるってご応募をお願いします。

■日程：11月19日（土）石炭記念館、長生炭礦跡地ほか

20日（日）長登銅山跡地、長登銅山文化交流館ほか

■集合時間・場所：JR新山口 午前11時45分

新幹線：のぞみ7号 7：10 東京発→8：53 名古屋発→11：37 新山口着

ほかに飛行機（山口宇部空港） 夜行高速バス（山口）があります

■宿泊：湯田温泉（予定）参加人数が決まり次第、予約

■申し込み締め切り10月29日（土曜日）

■問い合わせ、申し込み先：村田淳 電話・Fax：045-401-5259

メール：sunao-murata@y8.dion.ne.jp

郵便：221-0011 横浜市神奈川区神之木台41-22

■参加費：1,700円（予定、宿泊費・レンタカー代ほか）

第46回 鉱山の映像を観る会のご案内

丸山もとこ

前半は今年放送されたニュース映像と、アマゾンの金鉱地に関するドキュメンタリー番組を上映します。

後半は平塚尚護さんの映像コレクションから、永松鉱山（山形県大蔵村、1971年閉山）の歴史と人々の暮らしを記録したドキュメンタリー映画「永松は語る」を紹介していただきます。

皆様のご参加をお待ちしております。

【日時】2016年12月10日（土）開場 13:00 上映 13:30～16:40

【会場】渋谷区立勤労福祉会館（渋谷区神南1-19-8）2F 第4洋室

【会費】無料

【上映内容】

13:30～14:20 サイエンス ZERO 「独占密着！海底に眠る巨大鉱床！」NHK, 2016年8月28日放送, 30分ほか2本

14:20～15:25 NHK スペシャル 大アマゾン 最後の秘境 第2集「ガリンペイロ 黄金を求める男たち」NHK, 2016年5月8日放送, 50分ほか1本

15:25～15:35 休憩

15:35～16:40 「永松は語る—350年の歴史と人々の絆—」永松北の会製作, 2011年, 63分

16:40～ 会からのお知らせ

【ウェブサイト】<http://www.jmrs.sakura.ne.jp/visual/>

【連絡先】jmrs.eizonokai@gmail.com

※上映の順番や内容は予告なく変更する場合があります。予めご了承ください。

※ご意見ご要望のある方は、丸山<jmrs.eizonokai@gmail.com>までご連絡ください。

定例会案内

今回は、ヨーロッパの鉄鉱山と北海道の炭礦の話題です。

①長谷川さんは鹿児島大学在職中に、幕末期薩摩藩が創建した洋式高炉の調査研究をした関係で、その際テキストに使用されたオランダの技術書に記された高炉と同時代のヨーロッパに保存されている高炉跡を訪ねた。ドイツ、オーストリア、ベルギー、スウェーデンなどをこれまで回った。

今年7月イタリアに行くにあたり、同国の製鉄について調べたところ、エトルリア人が約3000年前からエルバ島で鉄鉱石などの採掘を行い、製鉄も行ってたことを知る。そこで、現地で、その事実を確認した。エルバ島のカーボトリオ・マリナーナの間の山地が鉄山であり、そこから海岸に鉄鉱石を運び、船で対岸のピオンビーノの製鉄所に運び、製錬していたとのこと。

今回は、その鉄山跡を巡るツアーに参加して、鉄山の実態を見学、また、3箇所の鉄鉱石などの鉱物等博物館を見学。それらの様子を写真などで紹介する。

また、時間があれば、鉱山としてスウェーデンのファールンの大銅山(世界遺産)やオーストリアのアイゼンエルツ(ヨーロッパ一の鉄山)の写真を紹介します。

②島西さんは、世界の緩傾斜採炭のデファクトスタンダードとなっているシールド枠とドラムカッターを組み合わせた機械化採炭方式(SD採炭)が日本の石炭産業による技術導入・革新の成果であることに注目し、日本の石炭産業がどのように技術導入・革新を実現したのか、技術がどのように海外へ普及していったのかを明らかにする。報告の際には、SD採炭技術にくわえて水力採炭技術や保安技術についても言及する。

報告のポイントの第1は、日本における技術導入・革新のプロセスである。産官学連携の研究開発体制、石炭産業合理化政策による資金供給、欧米・ソ連への海外視察団派遣、機械化に対応した労使関係改革などを検討する。第2は、普及のプロセスである。ハードの輸出とその限界、技術移転事業の成果と課題などを検討する。

■日時：2017年1月28日(土)13時～17時

■会場：交渉中

■報告：①長谷川 雅康(前鹿児島大学)「イタリア・エルバ島の鉄山跡及び関連施設を巡って」

②島西 智輝(東京大学)「石炭生産技術の導入・革新と海外移転」

2016年10月13日 村田淳記

海外鉱山文献読書会のご案内

丸山もとこ

原則月一回、英文で著された鉱山関連本を逐語訳で読み解いています。1996年から始めて20年、現在は5冊目のテキストを読書中です。海外の鉱山の歴史を知りたい方、英語の鉱山専門用語や言い回しに慣れたい方、一緒に勉強しませんか？

【テキスト】Spence, Clark C. *British Investments and the American Mining Frontier, 1860-1901*. University of Idaho Press, 1995. 次回は65頁から

【次回予定】2016年11月19日（木）15:30～17:00

【会場】川崎駅の近く（参加希望者にご連絡ください）

【会費】なし ただしテキストは自分で用意してください

【ウェブサイト】<http://www.jmrs.sakura.ne.jp/reading/>

【連絡先】jmrs.dokushokai@gmail.com

【注意事項】参加希望者は必ず事前にご連絡ください

研究大会報告の募集

研究大会で報告していただける方を募集しています。

テーマは鉱山に関係があるものであればかまいません。金属鉱山、石炭鉱山、経済史、労働史、社会史、民俗、労働運動、あるいは鉱物、鉱床など様々な分野からの報告が会員の研究に役立つでしょう。

持ち時間は、原則として報告20分質疑応答10分ですが、もっと時間がほしい方は申し出てください。

報告は非会員でもかまいません。報告してほしいテーマや人物があれば、お知らせください。

●問合せ・送り先: 村田 淳 〒221-0011 横浜市神奈川区神之木台 41-22

Phonel・Fax: 045-401-5259 メール: sunao-murata@y8.dion.ne.jp

当会ホームページをぜひご活用ください

丸山もとこ

当会はネット上にホームページを開設しています（アドレスは下記参照）。そこでは、ニューズレター・会誌、例会・大会、見学会・巡検、映像の会、読書会などの最新情報を掲載しています。さらに「情報交換 BBS」では、当会以外の鉾山関連のイベント（企画展、シンポジウム、講演会、新刊本、ツアーなど）の情報を紹介しています（アドレスは下記参照）。逆に、個々の会員が「情報交換 BBS」を使って情報発信したり、記事にコメントをつけたりすることも可能です。情報（但し鉾山関連に限る）を発信したい方、記事にコメントをつけたい方は、下記連絡先までご連絡ください。記事の投稿方法についてお教えします。あるいは投稿したい内容をメールで下記連絡先までお送りいただければ、管理人が代わりに投稿することも可能です。

ぜひ当会ホームページをご活用ください。

【鉾山研究会ホームページ】 <http://www.jmrs.sakura.ne.jp/>

【情報交換 BBS】 <http://www.jmrs.sakura.ne.jp/member/>

【連絡先】 jmrs.hp@gmail.com

第 13 回伊豆鉾山(松崎町)巡検予告

伊豆半島には、名前が変わり重複したものも含めて 140 の鉾山があると思われます。まさに坑だらけ、鉾山半島ともいえます。なかにはまた中世や近世に起源をもつ鉾山もあります。これらの鉾山のあり方は近代のものと違った様相をしています。

まだ訪れていない鉾山が多く残されています。鉾山の原初の姿とその成り立ちの過程をしのべます。後に大鉾山に発展したものもあります。

いままでほぼ現地を確認できる主要な鉾山を訪れましたが、今回はまだ訪れていない未知の鉾山を探しながらめぐります。

そのためには確実な下見が必要です。ご協力いただけるかたは村田まで申し出てください。

■日程：2017 年 3 月上旬の土曜日と日曜日（1 泊 2 日）

■見学場所：静岡県松崎町および南伊豆町周辺

■服装・装備：服装は丈夫で汚れてもいい上着とズボン、足元のしっかりした靴あるいは長靴。ヘルメット、ハンマー（あればよい）。

ヘルメットは巡検中被ること、ヘルメットの用意のない方は参加を辞退していただきます。

- 宿泊：松崎町あるいは南伊豆町の民宿（予定）
- 参加費：未定
- 申込締切り：2017年2月中旬
- 申込み、問合せ：村田淳 電話・FAX：(045)401-5259
メール：sunao-murata@y8.dion.ne.jp
住所：221-0011 横浜市神奈川区神之木台 41-22

*2017年10月13日 村田淳記

例会報告者の募集

例会で報告していただける方を募集しています。

例会の報告の持ち時間は、研究大会が報告20分質疑応答10分に比べ、報告約1時間、質疑応答30分と十分に時間があり、じっくりとまとまった報告が可能です。

テーマは鉱山に関係があるものであればかまいません。金属鉱山、石炭鉱山、経済史、民俗、労働史、労働運動、あるいは鉱物、鉱床など様々な分野からの報告が会員の研究に役立つでしょう。

報告は非会員でもかまいません。報告してほしいテーマや人物があれば、お知らせください。

*問い合わせ、申し込みあるいは情報などを、村田淳あるいは役員に。

入会案内

「鉱山研究会」は、1973年11月に創立した、国内外の鉱山および炭礦と鉱山に係る事柄の歴史や現状についての研究を目的とする団体です。会報『鉱山研究』や『ニューズレター』の発行、研究大会、例会、鉱山の映像の会、読書会や鉱山地域の巡検や見学などを行っています。

入会資格は特にありません。分野を問わず鉱山に興味がある人でしたらだれでも歓迎します。入会希望者は、以下の宛先に入会を希望することを連絡してから、入会金なしで年会費（2016年度6000円）を送金してください。

郵便振替 00250-9-137795 鉱山研究会
連絡先：村田淳 phone/fax:(045)401-5259
221-0011 横浜市神奈川区神之木台 41-22
e-mail：sunao-murata@y8.dion.ne.jp